



瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、  
誰もが安全・安心で快適に生活できるまち

生活の基盤が整備され、  
快適に暮らしている

### 1 道路網・港湾

- ① 国道・県道の整備促進と生活道路の整備
- ② 道路施設の防災対策と適切な維持管理
- ③ 港湾の計画的な整備と産業・物流・交流拠点としての充実

### 2 住環境

- ① 空き家等対策の推進
- ② 住宅の耐震診断・改修への支援の充実
- ③ 公営住宅の安定供給の確保
- ④ 公園施設の適切な維持管理と利用促進

### 3 上水道・下水道

- ① 安全、安心、良質な水の安定供給
- ② 持続可能な下水処理施設等の運営・管理
- ③ 雨水対策の推進

### 4 循環型社会

- ① ごみの減量化と廃棄物処理体制の充実
- ② 3 Rの推進
- ③ 地域の環境意識向上の推進



## 1 道路網・港湾

10年後の  
目指す姿道路や港など災害に強い社会基盤が整い、  
産業・物流・交流を支えるとともに、  
市民が快適に暮らしている

## 現状

- 平成 30 年 7 月豪雨災害では、国道や県道など市内の主要幹線道路が各地で寸断され、救助活動や生活物資の確保ができない状況が発生しましたが、港が救援物資の搬入に活用されました。
- 国道、県道などの主要幹線道路や都市計画道路、集落間のアクセス道路は、道路改良や維持修繕、交通安全対策を順次実施している一方で、施設の老朽化が進んでいます。
- 竹原港では事故の危険性を解消するため、道路の路線形状の改良を実施するとともに、忠海港では増加する大久野島への観光客に対応するための取組を順次進めています。
- 「みなとオアシス\*」制度を活用し、各種団体や地域住民と行政の連携・協働により、交流人口の拡大や港の賑わいづくりに取り組んでいます。

## 竹原市の強み

- 広島空港・山陽自動車道などの高速交通体系を相互連絡する国道 2 号、国道 185 号、国道 432 号
- 東広島市・三原市を連絡する主要地方道路東広島本郷忠海線、三原竹原線
- 多島美を共有する周辺島しょ部と本土の連携基地となる竹原港・忠海港

## 課題

- 災害発生時の救助活動や生活物資の確保のため、道路や港などの生活基盤の強化が必要です。
- 広島空港・山陽自動車道からのアクセス向上や沿線上の土地利用を高めるため、国道、県道、都市計画道路、生活道路の整備が必要です。
- 橋梁など道路施設の老朽化が進み、点検・改修など適切な維持管理が必要です。
- 市民の快適な暮らしのため、歩行者や自転車が安全に通行できる道路整備や、バリアフリー\*、景観、防災、賑わいの創出など、市民との協働による取組が必要です。
- 竹原港では観光・交流拠点としての整備が望まれており、忠海港では車両と乗船客との交錯や駐車場不足による利便性の低下などの課題があります。両港とも、港湾利用者の安全性・利便性の向上を図るための取組を進めることが必要です。
- 海上交通連絡の要衝として、活力ある港づくりを図るため、周辺島しょ部との連携や、地域住民との協働による賑わいづくりに向けて継続した取組が必要です。

## 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
市道舗装補修実施路線数 (路線) (年度)	1 路線	16 路線
橋梁定期点検達成率 (%) (年度)	100%	100%

## 取組の方向性

### ① 国道・県道の整備促進と生活道路の整備

- 広島空港・山陽自動車道などの高速交通体系や周辺都市間の連絡を強化し、交流人口の拡大を図ります。
- 生活の快適性や安全性の確保、土地利用を促進するため、主要幹線道路から生活道路にいたる一体的な道路ネットワークの確立を目指して、国道、県道の整備促進及び都市計画道路、市道の整備に取り組めます。

主な取組

- 国道 432 号の整備促進
- 国道 185 号の歩道整備促進
- 都市計画道路忠海中央線の整備促進 など

### ② 道路施設の防災対策と適切な維持管理

- 安全で安心できる暮らしの確保のため、橋梁などの道路施設を定期的に点検し、老朽化した施設の改修・修繕による長寿命化や災害に対する予防対策を計画的に行います。
- 市民との協働での交通安全対策や美化活動により、道路の適切な維持管理に取り組めます。

主な取組

- 各種計画に基づく道路・橋梁等の定期点検と改修・修繕の実施
- 通学路交通安全プログラムの実施 など

### ③ 港湾の計画的な整備と産業・物流・交流拠点としての充実

- 周辺島しょ部をはじめとした芸南地域の暮らしと産業を支える連絡基地として、計画的な港の整備を促進し、観光施設と港の連携や、駅と港のアクセス改善を図ることで利便性の向上など、港の機能の維持・充実と交流人口の拡大に取り組めます。
- 周辺島しょ部や賑わいづくりのノウハウを持つ団体、地域住民と連携した港の賑わいづくりに取り組めます。

主な取組

- たけはら海の駅と道の駅たけはら等との連携強化
- 忠海駅とのアクセス改善に向けた忠海港の整備促進
- 「みなとオアシス\*」制度を活用した賑わいの創出
- 放置艇対策の推進 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 竹原市橋梁長寿命化計画 令和5～令和9（2023-2027）年度
- 竹原市舗装個別施設計画 令和5～令和9（2023-2027）年度



市道忠海中学校線



観光客で賑わう忠海港

## 2 住環境

10年後の  
目指す姿

- 安心して住みやすい住環境が形成され、誰もが安全で快適に暮らしている
- 公園が緑あふれる憩い・ふれあい空間となり、人々が活発に交流している

### 現状

- 平成 27（2015）年度に市内全域の空き家調査を行い、令和 4（2022）年度に地域を限定した空き家調査を行いました。平成 5（1993）年以降、住宅総数が世帯数を上回る状態が続いており、空き家数は人口減少や高齢化に伴い年々増加傾向にあります。
- 住宅の耐震化率は、平成 28（2016）年の 69.1% から、令和 2（2020）年度末には 75.3% に向上しています。
- 自治会等による公園里親制度\* や公園芝生化事業など、多様な団体や住民参加型による公園の維持管理手法の導入を促進し、市民の憩いの場として活用するとともに、愛着を深めてもらう取組を進めています。

### 竹原市の強み

- 空・陸・海の交通便利性の高さ
- 豊かな自然と温暖な気候

### 課題

- 活用可能な空き家等が多くありますが、需給のミスマッチの解消が必要です。
- 老朽化した空き家は倒壊等の危険性が高く、治安や景観、公衆衛生の悪化など住民の生活環境に悪影響を及ぼすため、対策が必要です。
- 地震の発生に備え、住宅の耐震化対策が必要です。
- 市営住宅では、既に耐用年限\* を経過した住宅が半数を超えるなど老朽化が進んでおり、長寿命化計画に基づく計画的な改修を行うとともに、地域優良賃貸住宅\* を含む良質な住宅供給が必要です。
- 公園をまちづくり活動の拠点として、賑わいづくり・維持管理を主体的に実施するためには、人材の発掘・育成などが必要です。
- 幅広い世代が、公園を快適で居心地の良い空間として利用できるよう、バリアフリー\* 化や芝生化、老朽化対策など、住民ニーズに対応した施設整備が必要です。
- 利用実態などを踏まえた公園の配置・仕様の検討が必要です。

### 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
空き家の活用数及び解体数 (戸)	175 戸 (H30-R4)	200 戸 (R6-R10)
公園を活用したイベント数 (公園使用許可数) (件) (年度)	214 件	281 件
公園里親制度認定団体数 (団体) (各年 3/31 現在)	14 団体	14 団体

## 取組の方向性

### ① 空き家等対策の推進

- 終活講座など空き家予防講座の開催や木造住宅耐震改修の支援などにより、空き家化の抑制・予防を図ります。
- 利活用できる空き家等の把握に努め、地域資源として、地域のニーズに合わせた他用途への転用や改修への支援など多様な利活用を促進するとともに、空き家の適正管理と空き家バンク制度などを活用した貸し手・借り手のマッチングに努めます。
- 空き家の所有者に、空き家の利活用が難しい場合は、解体を促す啓発や支援を行うなど管理不全な空き家等に対する取組を推進します。

主な取組

- 空き家予防講座等の開催
- 空き家の改修・家財撤去に対する支援
- 管理不全な空き家等対策の推進 など

### ② 住宅の耐震診断・改修への支援の充実

- 住宅・建築物の耐震化への支援制度の推進により、耐震化率の向上を図ります。
- 広島県や建築関係団体と連携し、耐震化に対する相談体制の充実を図ります。

主な取組

- 耐震診断・改修への支援
- 広島県や建築関係団体と連携した耐震化への相談体制の充実 など

### ③ 公営住宅の安定供給の確保

- 市営住宅長寿命化計画に基づく市営住宅の計画的・効率的な修繕等を実施し、質の向上とストックの有効活用を図ります。
- 地域優良賃貸住宅\* について、子育てしやすい住環境の提供に努めます。

主な取組

- 市営住宅の管理戸数の適正化
- 市営住宅の住環境改善
- 地域優良賃貸住宅の集会所（プレイルーム）の活用促進や敷地の環境美化 など

### ④ 公園施設の適切な維持管理と利用促進

- 公園施設長寿命化計画に基づく予防保全を進め、公園里親制度\* や指定管理者制度\* などの活用も図りながら、適切な維持管理を行うとともに、災害リスクや利用実態を踏まえた適正配置について検討します。
- 多様な住民ニーズや社会情勢の変化を踏まえた施設整備を進めることにより、快適で居心地の良い空間の創出に努め、市民や民間事業者などによる公園施設のさらなる利用促進を図ります。

主な取組

- 公園施設の改修・維持管理
- 公園施設の適正配置の検討
- 公園の指定管理者制度による活用促進
- 公園里親制度の推進
- 公園活用ルール・施設改修の検討 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 竹原市空き家等対策計画（第2期計画） 令和4～令和8（2022-2026）年度
- 竹原市耐震改修促進計画（第3期計画） 令和4～令和8（2022-2026）年度
- 竹原市市営住宅長寿命化計画（第2期計画） 令和3～令和12（2021-2030）年度
- 第2次竹原市緑の基本計画 令和3～令和17（2021-2035）年度
- 竹原市公園施設長寿命化計画 平成27～令和6（2015-2024）年度



空き家活用事例  
（まちなみ木工房）



改修した市営住宅  
（第2丸子山住宅B棟）



バンブー・ジョイ・ハイランド  
の遊具更新

### 3 上水道・下水道

10年後の  
目指す姿

- 安全で安心な水を安定的に供給している
- 汚水処理、雨水対策を行い、安全で安心な、環境に優しいまちになっている

#### 現状

- 人口減少等に伴う給水収益の減少や水道施設老朽化に伴う更新費用の増加、人材・技術力不足などが懸念される中、水道サービスを持続可能なものとするため、本市を含む14市町と広島県は広島県水道広域連合企業団を設立しました。これにより、竹原市の水道事業は、令和5(2023)年4月から広島県水道広域連合企業団に移行し実施しています。
- 平成26(2014)年に国土交通省、農林水産省、環境省が共同で策定した「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」により、10年程度を目途に汚水処理施設概成の方針が明示されました。
- 全国各地で気候変動に伴う局地的な集中豪雨による浸水被害が増大しています。本市においても、平成30年7月豪雨、令和3年7月豪雨により床上、床下浸水などの甚大な被害が発生しており、雨水対策事業の拡大を検討しています。

#### 課題

- 水道施設は高度経済成長期以降に整備されたものが多く、老朽化が進み設備の更新や緊急時における安定給水確保のため耐震化が必要です。
- 人口減少に伴い、水需要と給水収益が減少するため、水道事業経営の適正化や施設、投資、維持管理方法の最適化が必要です。
- 水源・浄水水質は良好ですが、水質に対する信頼性・安全性の維持が必要です。
- 人口減少等を見据えた持続可能な汚水処理施設の整備・運営が必要です。
- 浄化槽の法定検査受検率は広島県平均を下回っており、水質の向上に向け、浄化槽の維持管理の適正化を図ることが必要です。
- 農地の宅地化に伴う雨水の流入量の増加によって、市街地の浸水が起きやすくなっており、浸水対策が必要です。

#### 竹原市の強み

- 自己水源系と県用水受水系統の2系統による水の安定供給
- 広島県14市で4番目に低い水道料金

#### 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
有収率 (水道料金を徴収する水量率) (%) (年度)	86.6%	88.0%
水道管路の耐震化率 (%) (年度)	12.4%	21.4%
公共下水道整備率 (事業計画区域内) (%) (各年3/31現在)	55.6%	100%
浄化槽の法定検査受検率 (%) (年度)	62.9%	85.0%
下水道による都市浸水対策達成率 (中央排水区) (%) (各年3/31現在)	73.6%	100%
下水道による都市浸水対策達成率 (本川排水区) (%) (各年3/31現在)	0%	32.9%

## 取組の方向性

### ① 安全、安心、良質な水の安定供給

- 広島県水道広域連合企業団と連携し、水源保全や適切な水質管理のもと安全・安心・良質な水を提供するとともに、デジタル化などにより便利で快適なサービスの提供を図ります。
- 広島県水道広域連合企業団と連携し、施設の再編整備の実施や、デジタル化や民間活用などによる効率的な維持管理、施設の強靱化や機能強化による危機管理体制の強化などに取り組み、施設や維持管理の最適化を図ります。

主な取組

- 新成井浄水場・配水池の整備 (成井・中通浄水場の統合)
- 施設の耐震化、応急給水拠点の整備による水道の強靱化
- コスト縮減等による持続可能な水道事業運営 など

### ② 持続可能な下水処理施設等の運営・管理

- 公共下水道の処理区域では、地域に適した計画的な公共下水道の整備を推進するとともに、コスト縮減を図りながら、安定した事業運営を行います。
- 公共下水道の処理区域外では、合併浄化槽の設置を支援するとともに、浄化槽の適正な維持管理を促進します。

主な取組

- 公共下水道の整備推進と事業運営の安定化
- 合併浄化槽の普及と浄化槽の適正な維持管理の促進 など

### ③ 雨水対策の推進

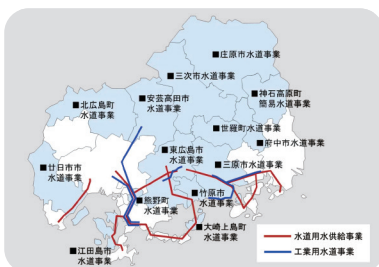
- 中央排水区については、新開土地区画整理事業\*など他事業との調整を図りながら、効率的な整備を行います。
- 本川・中通排水区については、二級河川本川改修事業など他事業との調整を図りながら、効率的な整備を行います。
- 中央・本川・中通排水区以外の地域については、各地域に適した効果の高い雨水の排水機能向上の手法を検討するなど、河川管理者、関係機関等と調整しながら、浸水区域の被害軽減・解消に努めます。

主な取組

- 新開土地区画整理事業区域内の雨水対策の推進
- 本川・中通排水区域内の雨水対策の推進
- 中央・本川・中通排水区以外の地域の浸水被害軽減・解消に向けた雨水対策の検討 など

関連する分野別個別計画

- 広島県水道広域連合企業団水質検査計画
- 広島県水道広域連合企業団広域計画 令和5～令和14 (2023-2032) 年度
- 第2次竹原市環境基本計画 令和3～令和12 (2021-2030) 年度
- 竹原市公共下水道事業経営戦略 平成29～令和8 (2017-2026) 年度
- 竹原市特定環境保全公共下水道事業経営戦略 平成29～令和8 (2017-2026) 年度
- 竹原市汚水処理施設構想 平成30～令和9 (2018-2027) 年度



広島県水道広域連合企業団構成市町



竹原浄化センター



竹原市中央第2 雨水排水ポンプ場

## 4 循環型社会

10年後の  
目指す姿市民みんなで環境にやさしい、  
清潔で快適なまちをつくっている

## 現状

- 近年、地球規模で発生している異常気象の要因のひとつに、地球温暖化があります。平成 27 (2015) 年国連サミット採択の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、気候変動へ具体的な対策を行うことが国際目標に掲げられ、取組の一つとして循環型社会の構築が挙げられています。
- 局地的集中豪雨や猛暑日の増加など、地球温暖化の影響を身近に感じるようになり、市民の環境問題や循環型社会に関する意識の高まりがあると考えられます。
- 令和 3 (2021) 年 10 月から、本市、東広島市、大崎上島町の一般廃棄物を共同処理する「広島中央エコパーク」の供用を開始しています。高効率ごみ発電による再生可能エネルギーの利用や、処理物すべての再資源化により、最終処分量ゼロの実現を目指しています。

## 課題

- 環境にやさしいまちづくりを進めるため、引き続きごみの減量化を図るとともに、ごみの適正な処理が必要です。
- 循環型社会の構築に向けて、市民一人一人が取り組める 3 R \* の推進が必要です。
- P T A などの資源回収団体の資源回収活動を支援するなど、リサイクル率を向上させる取組の推進が必要です。
- 排出されるごみの中に分別すれば再利用できる資源が多く含まれていることから、再利用することが可能な「雑紙」などについては、「もやせる物」に混入させることなく、「資源物」として排出するなど、分別の徹底が必要です。

## 竹原市の強み

- 自治会などによる不法投棄パトロール活動や地域清掃

## 成果指標

成果指標名	現在の値	最終目標
一般廃棄物のリサイクル率* (%) (年度)	14.9% (R3)	21.4% (R9)
1人1日当たり家庭系一般廃棄物排出量 (g / 人・日) (年度)	1,055 g / 人・日 (R3)	938.2g / 人・日 (R9)
資源物回収団体の活動件数 (件) (年度)	11 件 (R4)	現状維持 (R10)



## 取組の方向性

### ① ごみの減量化と廃棄物処理体制の充実

- 環境に配慮した一般廃棄物の処理を行うため、引き続き、市民に対し、ごみの適切な分別に対する理解と協力を求め、分別による家庭ごみの減量化を図ります。
- 関係市町と連携し、「広島中央エコパーク」の適正な管理運営に努め、一般廃棄物の安定的な処理を進めます。

#### 主な取組

- 家庭ごみの適切な分別に対する市民の理解・協力を得られる意識啓発
- PTAなどの資源回収団体への支援
- 広島中央環境衛生組合\*のごみ処理施設などの適正な運営 など

### ② 3Rの推進

- 3R\*を推進するため、3R推進月間（10月）などを通じて資源循環の意義等を情報発信し、市民一人一人が3Rを意識し、できることから取り組めるよう支援します。
- 「広島中央エコパーク」の運営にあたっては、熱エネルギーを利用した高効率発電や焼却過程で発生するスラグ\*の資源としての活用を推進します。

#### 主な取組

- 3R推進に係る広報活動
- 広報等による食品ロスに対する意識啓発
- ごみ焼却時に発生する熱エネルギーの利用 など

### ③ 地域の環境意識向上の推進

- 竹原市公衆衛生推進協議会を中心に自治会等と連携を図り、側溝の清掃や草刈などの美化活動を通じて、地域美化への市民の意識醸成を図ります。
- 市民と協働で廃棄物の不法投棄監視パトロールの実施や啓発看板・監視カメラの設置など、不法投棄をさせない環境をつくります。

#### 主な取組

- 竹原市公衆衛生推進協議会による地域での美化活動への支援
- 市民との協働による不法投棄監視パトロールの実施 など

#### 関連する分野別個別計画

- 第2次竹原市環境基本計画 令和3～令和12（2021-2030）年度
- 第10期竹原市分別収集計画 令和5～令和9（2023-2027）年度
- 第2次一般廃棄物処理基本計画（東広島市・竹原市・大崎上島町・広島中央環境衛生組合）令和3～令和17（2021-2035）年度



広島中央エコパーク



不法投棄パトロール車

